

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-181081
(P2021-181081A)

(43) 公開日 令和3年11月25日(2021.11.25)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
CO2F 1/50 (2006.01)	CO2F 1/50 531R	4D050
CO2F 1/78 (2006.01)	CO2F 1/50 540B	4G035
BO1F 1/00 (2006.01)	CO2F 1/50 550D	4G042
CO1B 13/10 (2006.01)	CO2F 1/78	
CO1B 13/11 (2006.01)	BO1F 1/00 A	
審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 14 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2021-70365 (P2021-70365)
 (22) 出願日 令和3年4月19日(2021.4.19)
 (31) 優先権主張番号 特願2020-85559 (P2020-85559)
 (32) 優先日 令和2年5月14日(2020.5.14)
 (33) 優先権主張国・地域又は機関 日本国(JP)

(71) 出願人 598015084
 学校法人福岡大学
 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
 (74) 代理人 100182084
 弁理士 中道 佳博
 (74) 代理人 100207136
 弁理士 藤原 有希
 (72) 発明者 三島 健司
 福岡県福岡市城南区七隈八丁目19番1号
 学校法人福岡大学内
 (72) 発明者 徳永 真一
 福岡県福岡市城南区七隈八丁目19番1号
 学校法人福岡大学内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オゾンバブル水の製造方法およびそれを用いたオゾンバブル水製造装置

(57) 【要約】

【課題】 金属イオンなどの不純物を含有させることなく、高濃度のオゾンを含むかつ調製後24時間が経過しても十分なオゾン濃度を維持し得る、オゾンバブル水の製造方法およびそれを用いたオゾンバブル水製造装置を提供すること。

【解決手段】 本発明のオゾンバブル水の製造方法は、パリア放電により酸素からオゾンが発生させる工程、および発生したオゾンを実媒体に導入して機械的剪断をかける工程を包含する。本発明の方法により得られたオゾンバブル水は、調製後24時間が経過しても例えば医療分野にて所望される高濃度のオゾンを含むことができる。

【選択図】 図1

